

取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

このたびは、当社製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

安全上のご注意

施工・使用前に、下記注意事項をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ずお守りください。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害が発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

- 必ず実行** 必ず実行していただく「強制」を示します。
- 禁止** してはいけない「禁止」を示します。
- 注意** 気をつけていただきたい「注意」を示します。

施工上のご注意

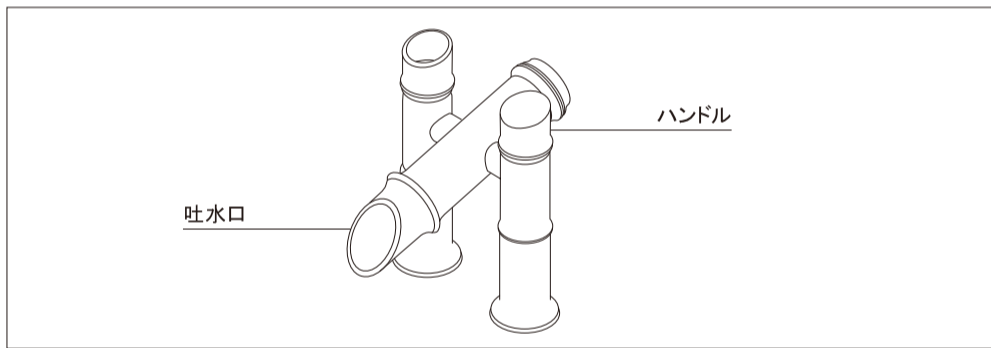
注意	
必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ●施工の際は、軍手等を必ずご使用ください。ケガをする恐れがあります。 ●施工および点検・メンテナンスのため、止水栓(別売)を必ず設置してください。
禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●温泉水・中水・飲用不可な井戸水には使用しないでください。 ●凍結の可能性のある場所には設置しないでください。凍結破損により漏水し、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。 ●無理な施工はしないでください。通水不良や器具破損の恐れがあります。
注意	<ul style="list-style-type: none"> ●施工の前に水栓本体に付いている緩衝材を外さないでください。水栓本体を取付ける際に、水栓本体が不安定になり施工しづらくなります。 ●施工完了後、各器具から漏水がないかご確認ください。漏水により家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。

製品同梱明細

施工前に、下記の同梱部材があることをご確認ください。

- 水栓本体 ●ストレーナー・パッキン ●菊座・パッキン・水栓固定ナット(各2個) ●取扱施工説明書

各部のなまえ

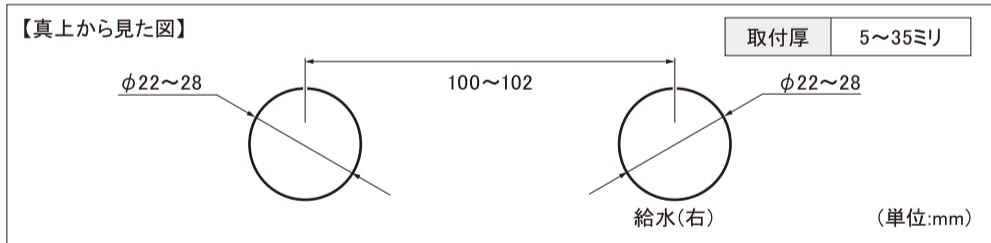


*品番によっては図と製品の形状が一部異なります。

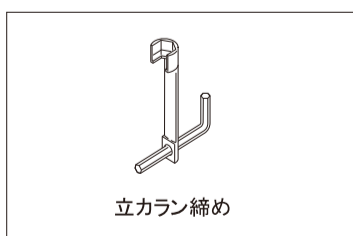
施工の前に

施工条件

取付穴が以下の取付穴径・ピッチで開いていることをご確認ください。



準備するもの

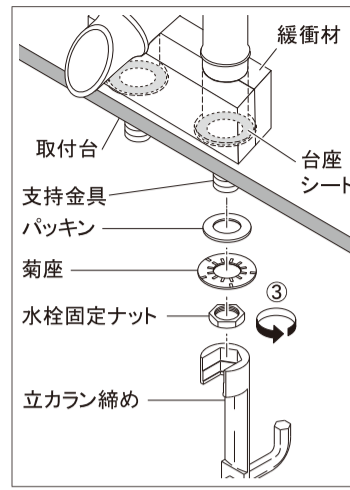


- *左記に加えて、
 - モンキーレンチ
 をご準備ください。
- *その他、施工に必要な配管部材等は別途ご準備ください。

施工方法

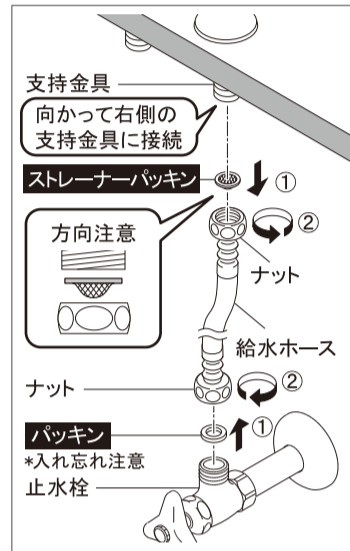
数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、止水栓または元栓を閉じて取付作業を行ってください。

1. 水栓本体を取付けます。



- ①水栓本体底面に台座シートが貼付けられていることを確認します。
 - ②吐水口が正面を向くように緩衝材はつけたまま、取付穴に差込みます。
- 注意** 水栓本体を取付穴に差込む際は、緩衝材と本体をしっかり持ってください。水栓が安定せずにグラグラする可能性があります。
- ③パッキン・菊座の順に支持金具に通し、水栓固定ナットを「立カラン締め」などでしっかりと締付けます。
*左側も同様に取付けます。
 - ④緩衝材を外します。
- 注意**
 - 水栓本体が正しく固定されていないと、ガタつきや取付台下のキャビネット・流し台内への漏水、部品損傷の原因となりますのでご注意ください。
 - 台座シートが取付台に接していない箇所があると、取付台下のキャビネット・流し台内へ漏水を起し、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。

2. 止水栓と接続します。



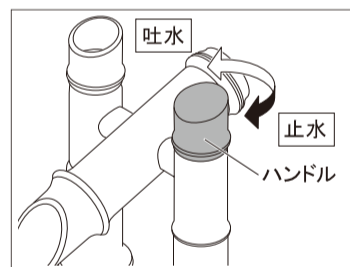
- ①ストレーナー・パッキン・パッキンを給水ホースのナットにはめ込みます。
*ストレーナー・パッキンの向きにご確認ください。
*パッキンと給水ホースは別売です。
 - ②給水ホースのナットにストレーナー・パッキン・パッキンが入っていることを確認し、正面からみて右側の支持金具・止水栓にしっかりと固定します。
*給水ホースは正面からみて右側の支持金具に接続してください。左側の支持金具に接続しても給水されませんのでご注意ください。
*パッキンの入れ忘れにご確認ください。
- 必ず実行**
 - フレキパイプをご使用の場合は接続する配管を確実に固定してください。配管の固定が確実でないと、ウォーターハンマー等の振動によりフレキパイプが破損する恐れがあります。
 - 止水栓と接続する際は必ず同梱のストレーナー・パッキンをご使用ください。ストレーナー・パッキンを使用しない場合、止水不良を起す恐れがあります。

施工後の確認

- ①止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないか確認します。漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉じ、漏水する箇所を施工し直してください。
- ②ハンドルを開き、吐水状態を確認します。適量で吐水するために、止水栓で水量を調節してください。

使用方法

ハンドルの操作方法



ハンドルを反時計回りにまわすと「吐水」、時計回りにまわすと「止水」します。
*ハンドルは右側です。左側は動きません。

必ず実行 ハンドルはゆっくり操作してください。

凍結防止方法

水栓周囲の温度が0℃以下になり凍結の恐れがある場合は、下記の方法で凍結を予防できる場合があります。



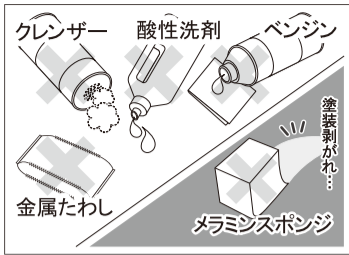
- 配管を保温する。
- 水栓から水を少量出しておく。(目安:1時間に200ml程度)
- 外気が入らないよう窓等を閉める。

*凍結により破損した場合は、保証期間内でも無償修理の対象外となります。

お手入れ方法

器具のお手入れ

いつまでも美しくご使用いただくために。

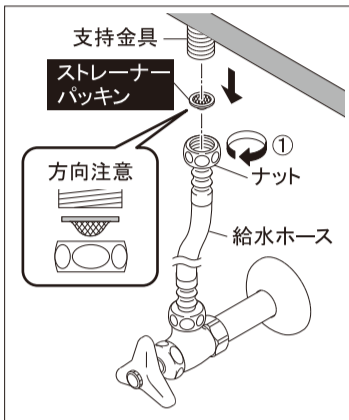


- 水栓器具の金属部
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいでください。
- 水栓器具の樹脂部・塗装面
乾いたやわらかい布でお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いたやわらかい布で水気を拭き取ってください。

注意 金属たわし、クレンザー・みがき粉等粒子の粗い洗剤、酸性・アルカリ性・塩素系洗剤、ベンジン、油やアルコール等は、本品を傷めますので使用しないでください。また、塗装面や印字部等にメラミンスポンジを使用しないでください。

ストレーナーパッキンのお掃除

作業前に、必ず止水栓または元栓を閉じて止水してください。



- ①給水ホースのストレーナーパッキンが入っている側のナットをゆるめ、ストレーナーパッキンを取出します。
- ②ストレーナーパッキンの網目に詰まったゴミなどの異物を水洗いします。

注意 配管内に水が残っている恐れがあります。止水栓の下にバケツ等を置いて周囲のものを濡らさないようご注意ください。

- ③逆の手順で元に戻します。

作業後は、必ず止水栓または元栓を開いて通水し、漏水がないことをご確認ください。

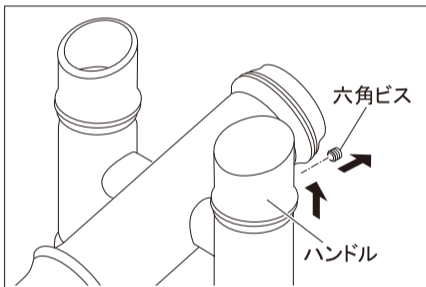
上部の交換方法

準備するもの

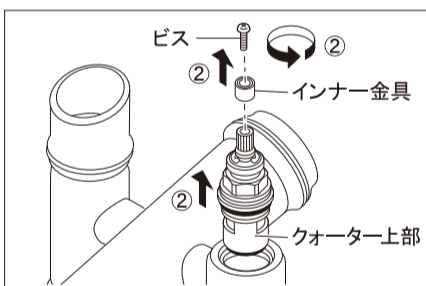
- 六角レンチ(対辺2ミリ)

交換方法

作業前に、必ず止水栓または元栓を閉じて止水してください。



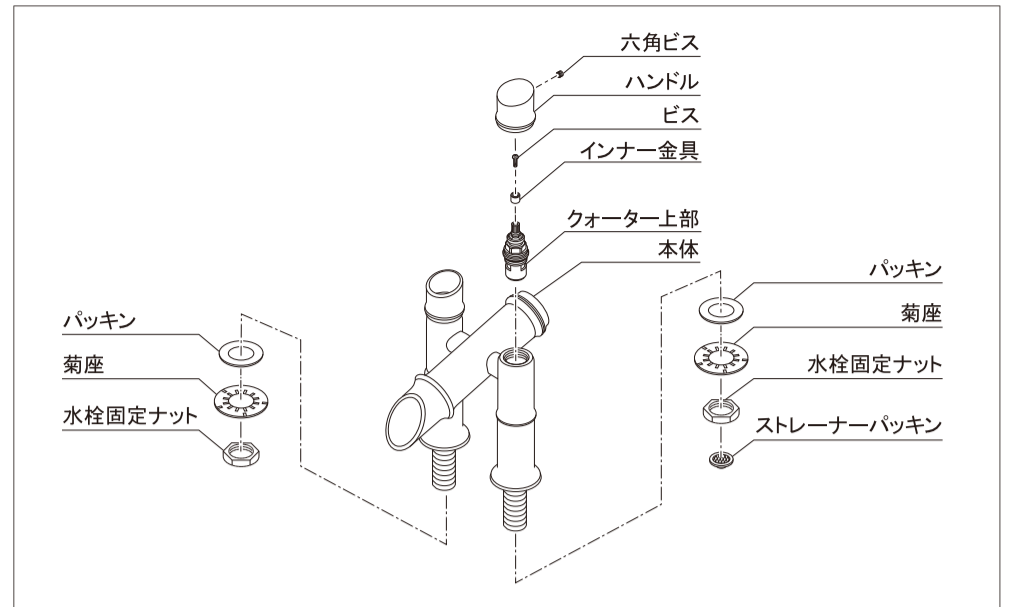
- ①「六角レンチ」でハンドル背面にある六角ビスをゆるめ、ハンドルを上方向へ抜取ります。
*六角ビスはなくさないようご注意ください。



- ②ビスを反時計回りにまわして取外し、インナー金具とクォーター上部を上方向に取外します。
- ③新しいクォーター上部と交換し、①～②の逆の手順で組直してください。

作業後は、必ず止水栓または元栓を開いて通水し、漏水がないことをご確認ください。

分解図



*品番によっては、図と製品の形状が一部異なります。
*製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

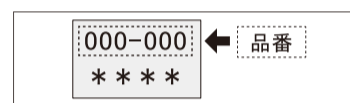
こんな時には… 簡単な点検と対処

機能が正常に働かない時は、修理を依頼される前に、**分解図** を参考に下記の要領で点検してください。

現象	原因	対処
吐水量が少ない	ストレーナーパッキンの目詰まり	ストレーナーパッキンを掃除する
全く吐水しない	止水栓または元栓が閉じている	適正水量になるまで止水栓または元栓を開く
	ストレーナーパッキンの目詰まり	ストレーナーパッキンを掃除する
止水できない	クォーター上部の異常	クォーター上部を交換する
ハンドルがかたい	クォーター上部の異常	クォーター上部を交換する

以上の点検を行っても正常に作動しない場合は、お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。

修理を依頼される前に



お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせいただく際、水栓本体にシールが貼付けられている場合は、そちらで品番をご確認ください。